

1、総括についての評価

・本年度の学校の自己評価結果は妥当である。各種の調査結果等の分析を行い、具体的な施策に取り組み、課題を明確にしなが、適切な教育活動が行われている。

・児童の人間関係にも注意しながら、学力・体力の向上にしっかり取り組まれている。

・いじめや不登校等に対して、課題解決に尽力されており、不登校では改善した児童がいるなど着実に成果が表れている。また、いじめ対策委員会やスクリーニング会議等、校内で共有し組織的に対応するだけでなく、関係諸機関とも連携を深めて防止にも努めている。

・ICT機器の積極的な活用や整備を十分に行い、より一層進められた。タブレットの持ち帰りが始まり家庭での活用だけでなく、不登校児童へのオンライン授業も適宜行っている。学習用端末の日常的な使用によって、大幅に活用時間が増え、わかりやすい授業に向け積極的に取り組むことができている。

2、年度目標ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

取組内容①②③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

生活指導部会やいじめ対策委員会やスクリーニング会議で、各担任が入力する児童データを活用し共通理解の場をもった。内容をファイルにまとめ適宜全職員が見直すことができるように工夫した。経緯や対応も日誌機能を使って共有し、学校全体で子どもの見守り、声掛けや接し方に活用できている。心の天気への記入や児童虐待防止の授業も計画通り行っている。また不登校児童の居場所として、相談室を整備し個別学習に取り組んでいる。

取組内容④⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】

アンケートで「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童が90%を超えた。学級活動や道徳科の学習を通してきまりを守ることの大切さを指導してきた結果であるが、一部行動に結びついていない児童もおり、学びと指導の両立が今後も必要である。経年調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は80%を超え目標を達成することができた。各学級での実践や出前授業等を通して、将来への希望や意欲が育っている。年2回のキャリアパスポートの記入により、自己を振り返ることにより、自己のよさについて考えることができるようにした。さらなる自己肯定感の向上をめざす。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

取組内容①②③④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】

各学年で行った研究授業での成果と課題をその都度、学校全体で共有した。国語科研究として、自分の思いや考えを書くためのワークシートや掲示物を工夫し、読み取る力の育成に努めた。誰一人取り残さない学習をめざし、今後も継続して取り組む。

様々な形で全職員やサポーターが連携をとり、個に応じた指導に力を入れ、児童の習熟度を高めることができた。学習の進め方として、少人数学習を中心にペアトークやグループ活動を通して、分からない児童も友だちと一緒に考える場を設けるようにしてきた。そして、児童が「わかった」といえるまで、休み時間や放課後に個別指導を粘り強く行った。児童アンケートの結果は、肯定的回答が91%と目標を達成することができた。

取組内容③④【基本的な方向5 健やかな体の育成】

計画的に運動集会、「かけあし週間」「なわとび週間」等の体育的強調週間やトップアスリートや専門家による特別授業等の実施により児童の運動に対する興味・関心が高まっており、男女とも大阪市平均より体力合計点は高い。今後も家庭・地域と連携し、子どもたちが運動に親しむ機会を設けるようにする。

給食だよりや保健だよりが計画的に発行され、児童や保護者に啓発を図ることができている。また、発育測定や栄養指導の時には、健康を守ることの大切さやバランスのよい食事をとることの重要性についての指導を行った。経年調査の「朝食は毎日食べていますか。」の結果が95.1%だったことからこれらの啓発内容や指導内容が浸透していることが伺える。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

**取組内容①②【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)】**

「児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする」の項目について、授業日147日のうち55日と目標を達成した。次年度に向けてchromeBookの校内研修も行い、継続してICT環境を駆使できるよう努めている。校内アンケートでは「ICT機器(大型画面)やパソコンを使った授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える児童の割合が、89%で目標を達成した。

**取組内容③④【基本的な方向8 生涯学習の支援】**

教職員の働き方改革を推進し、教育課程の編成・会議等の短縮を計画的に行い、今年度は目安である時間外労働時間45時間以下を全教職員で達成することができた。

また、図書館開放や読み聞かせ、絵本広場など児童が読書に親しむ機会は充実していた。本が探しやすいように本棚の配置やPOPの工夫、新たな図書イベント等、前年度に比べ活動内容が充実した。校内調査における「読書は好きですか」の項目で75%と目標の77%より下回る結果となったが、前年度に比べ4%向上している。

**3、今後の学校運営についての意見**

・読書活動への意欲の低下が気になる。スマホ・タブレットは処理することは早いですが、小学校の間は処理するテクニックを教えるより、論理的な思考等を学ぶべき時期である。読書は大切にすべきである。

・不登校児童の改善は見られているが、新たに不登校児童が増えている点が気になる。不登校の減少は丁寧に寄り添って社会との関係が切れないよう、これからも継続した取組をお願いしたい。不登校児童の居場所づくりは、賛成できる。その教室は今後も活用してほしい。

・先生によって指導があいまいな部分が多い。学習指導の徹底が必要である。次の学年にも響く。きちんと保護者に伝え協力を進めてほしい。

・児童数が急激に増えているのも影響しているかもしれないが、経年調査結果が市平均を切っている学年がある。今後ともわかるまで教えるという姿勢を大事にしてほしい。